

雨が降って、子どもが傘をさして登校するのを楽しみに待っていた。第10号で、昇降口にある2年生の傘だけが、整然と揃っていたことに触れた。たしか次の日も雨だった▼何が起こったのかわからないが、すべての学年の傘が整然と揃えられていたのだ。なぜそうになっているのかはわからない。小さな天使さんの仕業かもしれないし、「勇気の連鎖」かもしれない▼それから雨が降らなくなって、傘立てを見る機会がなかった。そして今日は、朝から雨模様、色とりどりの傘を手に登校する子どもを見ながら、楽しみにしていた。もちろん大きな期待をしていた。予想通り、気持ちのよい傘立を見ることができた。ところどころ乱れていて、全体的には整理して並べられている▼だれかが「きれいに並べる」ことは、やってくれた子に価値がある。「一人ひとりが意識してきれいに並べようとした」ことにも価値があるのだ。そしてそういう場合は、多少乱れるものなのだ▼理想は、一人ひとりが意識を持ってきれいに並べ、だれかがそれを助けてくれること。しかし、求めているのは、「美しさ」ではない。「だれもが使いやすく」するための整理整頓。ユニバーサルの考えであり、マナーであり、それが結果として美しい▼マナーを突き詰めていくと「人にやさしく」である。「礼儀作法」ともいう。ルールではなく、マナーを兼ね備えた人は、かっこいい。